

◆ 巻頭言

性暴力と闘う

謝花 直美

米軍普天間飛行場へのオスプレイ強硬配備に怒りが渦巻く沖縄で2012年10月、米兵2人による女性への性暴力事件が起きた。海軍所属の米兵はグアム出発まであと数時間というときに逮捕された。8月にも那覇市で強制わいせつ事件が起きていた。犯罪再発防止のため、米軍には夜間外出禁止令が出ていたが、酔った米兵が夜間に住宅に侵入する事件が相次いだ。

全国の1%に満たない面積の沖縄に、75%の米軍基地が集中する。沖縄戦と27年間の米軍占領が終わっても、米軍基地があるために性暴力が繰り返されてきた。施政権返還後も米兵による強姦事件は未遂を含め2011年末までに127件が検挙されている。

1995年、米兵による暴行事件が起きたとき、県民の怒りは爆発した。女性への暴力防止をテーマとした世界女性会議北京大会から帰国した沖縄の女性たちはいち早く抗議の声を上げ「基地軍隊を許さない行動する女たちの会」を結成した。米軍基地から派生する構造的暴力の問題を指摘し、反基地運動に女性の視点を明確に位置づけた。女性や子どもたちの安心・安全な暮らしを願う思いに牽引され、施政権返還後、反基地運動は新たな「島ぐるみ闘争」となり、現在のオスプレイの強硬配備反対運動へとつながっている。

米軍基地から派生する暴力の問題から始めて、沖縄社会の中の性暴力と闘うために立ち上がった女性たちは、沖縄強姦救援センター「レイコ」を造った。しかし、いまだに米兵による性暴力は繰り返され、安心な暮らしを！という願いはかなっていない。それでも、性暴力に対する認識は社会に広がり、沖縄県は2013年から、支援を1カ所で受けられる「ワンストップ支援センター」を始動させる。女性たちの決してあきらめない闘いが、社会を変えていくことに確実につながっている。



PROFILE

謝花 直美
(じゃはな なおみ)

沖縄タイムス記者(1990年～)。現在、編集局特報チーム記者として沖縄戦、沖縄戦後史をテーマに取材を続けている。やよりジャーナリスト賞(2012年)受賞。著書に『男に吹く風』『戦場の童 戦場の孤児たち』(以上沖縄タイムス社)、『証言沖縄「集団自決」』(岩波書店)など。